

ICT 業界へ行くなら、飛躍的進化を目指すべき



ナビゲーター

キャリア・アドバイザー
松尾 順氏

キャリア・アドバイザーの松尾順氏による業界探求シリーズの4回目は、ICT および半導体業界について。常に人材ニーズの高い業界であり、内定獲得率は低くない。しかし、「ただ入るだけ」で終わってしまっただけは、あまりにもったいないという。

“売手市場”に甘えず、真にハッピーとなれるキャリア構築を目指すべき

情報通信の領域を昨今ではITではなくICTと総称することが増えてきた。「C」はコミュニケーションのC。ユーザー主導であるWeb2.0の浸透や、顧客満足優先のソリューション提供型ビジネスモデルを多くの情報通信企業が強化していることから、コミュニケーションがいかに重要なファクターになっていくかはわかる。ではそのICT業界の人材ニーズはどうかといえは、どの業界よりも高い状態がずっと続いている。「ICTと半導体業界を合わせたら、全求人3割ぐらいになるでしょう。それくらい量的人材不足を慢性的に抱えているのです」

人材紹介会社A・ヒューマンでICTおよび半導体業界を担当する赤澤隆氏はこう語る。転職志望者の多くも「チャンス大」との印象をICTに持っているという。「例えば10年前にベンチャーだった企業が、今では勝ち組企業として認識されているケースも少なくありません。ある種の安定志向を持つ異業種人材も最近ではICTに関心を示します。ただし常に高速で進化する領域ですし、ICTはハードワークが当たり前。その点は理解してほしいと思います」

同じくICT・半導体業界を担当する北村浩一郎氏はこう言う。入るチャンスは大きい業界だが、入ってから精進が求められる現実も知っておく必要があるだろう。「最新の知識やスキルが1年後には陳腐化している、という現象が当たり前のようにある業界。進志向のある企業かどうかを見抜くことも重要です。自分自身にどれほど進化・成長をする意欲があるのかも、きちんと確かめるべきです」(北村氏)

「一口にICT」といっても業態は非常に広い。システム構築をするのもICTですし、インターネットを介してサービスを提供する会社もICT。「自分の力や志向が、どのようなビジネスで生きるのか」についても、よく考えてほしいと思います」(赤澤氏)

図に示したポータブルスキルを確認してほしい。しかし、それだけでは足りない2人のコンサルタントは言う。

「例えば企業ごとに異なるカルチャーや価値観。それらが自分の志とマッチするかどうか、というのが大きな問題です」(北村氏)

ICT 業界で今後求められるポータブルスキル

専門性

どんな事業形態、所属部門であろうと、一定の知識やスキルは必須。ただし最も必要なのは「日々進化しようとする」姿勢。現状のスキルレベルよりも「進化へのモチベーション」を自己確認すべき。

フレキシビリティ

どこよりも変化スピードの速い業界。専門性を常に高める姿勢のみならず、予想外の展開があっても柔軟に対応していける資質が重要になる。一通りの仕事スタイルに固執しない臨機応変さも必要。

語学力

仮に国内系企業やベンチャーでも、ビジネスはグローバル市場ベースで捉える必然性がICT業界では高い。技術情報は最新のものは英語ベース。国際性の基礎として、語学力があれば、より可能性が広がる。

お客様思考

ICTは技術進化優先の時代ではなくなった。Web2.0に代表されるように、ユーザーニーズ優先、ソリューション提供優先のビジネスモデルが主流化。「お客様」と同じ思考を持つ人材が求められている。

Jun Matsuo

1964年生まれ。早稲田大学卒業後、シンクタンク、広告会社、ネットベンチャー等を経て2001年シャープマインド設立。マーケティング、キャリアデザイン支援を展開し、A・ヒューマンキャリア塾(<http://www.blog.a-human.net/>)で塾長も務めている。

取材協力/株式会社A・ヒューマン コンサルタント
赤澤隆氏 北村浩一郎氏